

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月14日(火) 10:00～10:36

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県産の布製マスクの贈呈について

代表質問

- (1) 大型連休を前にした県民へのメッセージについて

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への県の対応について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さんおはようございます。やはり新型コロナウイルス感染症のことでありますけれども、最初の感染者の確認が3月31日に出されてから、まだ2週間しか経っておりませんが、既に39名に達しております。しかも県内の4地域全部で確認をされているところです。急速に、しかも広い範囲に感染が確認されているという、本当に私は非常事態だというふうに思っているところです。

県民の皆様にはくれぐれも、感染防止のためにですね、丁寧な手洗いと咳エチケット、そして3つの「密」を避ける、密閉、密集、密接、この3つの「密」を避けるということで、感染が拡大するのを防いでいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは私から1点だけ発表がございます。県内各地で手づくりの布マスクを作成して寄贈する活動、「愛のマスク運動」と言っておりますけれども、それが県内全域の支え合い・思いやりの輪として広がっており、県でもこうしたボランティア活動を支えていきたいと考えております。

一方で、マスクが市中では購入することが困難な状況にあります。そのため、新型コロナウイルス感染症対策の一環としまして、県内の縫製事業者等が製造した県産の布製マスクを、保育所などの児童関係施設及び福祉施設の児童、利用者及び職員に対して、無償で配布して、感染予防を図ることとしております。

県産の布製マスクは、月末までに福祉施設分12万枚及び児童関係施設分3万枚を確保していくこととしており、納品なり次第、順次、配布をしてまいります。

第一弾としまして、今週の17日の10時20分から、県内保育所等を代表して、山形市宮町の「キンダーこども園」において、私から職員の方43名と園児52名分のマスクの贈呈を行います。

記者の皆さんには、新型コロナウイルスの不安やストレスが県民の中に広がる中で、「愛のマスク運動」や県内の縫製事業者等が生産したマスクを順次配布してまいりますので、一筋の明るい話題として、県民の皆様にお知らせくださるようお願いをいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

TUYの菅野と申します。これからですね、ゴールデンウィークという大型連休を迎えるということで、今までも外出の自粛などがこうやって呼びかけられている中、少し県民の皆さん、気の緩みとかも出てきてしまうような恐れがあると思うのですが、知事のほうからまた改めて、どういう行動を心掛けてほしいか、呼びかけをいただけますか。

知事

そうですね、例年ですと、この大型連休にはですね、さまざまな行事やイベントがたくさん行われて、それを見に行ったり参加したり、また旅行したり、県民の皆さんが楽しく、全国的に楽しく過ごされる、そういう期間だというふうに思っております。ところが現在はですね、私もこういう防災服を着ておりますけれども、もう世界規模の、未曾有の大災害が起きていると、そういうふうな認識を私は持っております。新型コロナウイルス感染症という、本当に目に見えないものすごい大災害がもう猛り狂っているという感じがしてならないのであります。

今、東京でも大変な状況であります。それがいつこの山形県に来るか、もう来始めているのですけれども、これからもどのぐらい、もう2週間続いていますけれども、これからも続くことが予想されます。それをこのゴールデンウィークの期間中に、更に拡大するというようなことだけは本当に避けなければならないという思いを、私とそれから県民の皆さんとでぜひ共有していただきたいというふうに思っています。県境に近い部分での検温とか、そういった注意喚起、呼びかけということを行っていくというのも、やはりこのゴールデンウィーク中に、なるべく拡大するというのを防ぎたいというそういう思いがあるからです。そんな形で拡大をしていきますと、検査体制でありましたり医療体制でありましたり、地方においては医療人材も大変脆弱といいますか大変少ない、そういう中でですね、しっかり取り組んでいかないといけないということでもありますので、医療崩壊にだけはしたくないと、してはいけないというふうに思っております。そういった体制もですね、強化しながら、更に県民の皆さんの、その気を緩めないでですね、気を引き締めて、しっかり今後も一緒になって取り組んでいただきたいと思っています。

ただ、これから連休でありますので、学校はもちろん会社、いろんなところがお休みになります。そういう中でどういうふうな過ごされ方と言いますかね、過ごし方をされるかなと思いますけれど、やはり丁寧な手洗いと咳エチケットをしっかりと励行していただきながら、3つの「密」を守っていただきながら、いろんなことができると思います。例えば「晴耕雨読」というのがちょっとイメージとしては浮かぶのですね。晴れの日もあれば雨が降る日もあると思いますので、そういった生活というのがまず基本かなと思いますけれども、まず屋外・アウトドアと、屋内・インドアに分かれるかなと思います。

アウトドアでありますとですね、密閉が外れるわけですね、もう換気がなっていますから。ですから2つの「密」を守ればいいということになると思います。密集と密接、それを避けながらですね、やはりいろんなことが、山形県の場合は自然が豊かですから、自然とのふれあいということがまずはできるかと思っています。散歩でありましたり、ピクニックでありましたりね、それから写真の好きな方は写真を撮るとか、絵が好きな方は絵を描くとかですね。本当にいろいろなことができるかなと思っています。ただその基本のところだけ押さえていただきたい。また県内でということをお願いしたいというふうに思っ

います。県外との往来はやっぱりきちんと控えていただくようにお願いします。特に若者ですね。若者は本当にいろんな所を見に行きたいとかですね、がらがら空いている東京を見に行きたいとか言って行かれたというようなのも聞いてありますけれども、ぜひご自分だけではなく周りの人たちのことも考えて、考えて行動する社会の一員なのだということをお学ばしい機会にしてもらいたいなと思っています。

もう一つはインドアです。屋内、やはり外に出掛けられない方々もいらっしゃると思います。インドアもですね、例えば家族間でもやはり3つの「密」というものもちゃんと守っていただきながらとなりますけれども、いろんなことがやっぱり、時間がたっぷりありますので、好きな音楽を鑑賞するとかね、ここ山形県にはプロのオーケストラが、山形交響楽団がありますので、今そういう芸術文化団体というのは大変な状況にあるということでありますので、これは私からのお願いと言いますか、山響のですね、CDでも手に入れていただいて、ゆっくりと聞いていただくとかですね、そんなこともできるかなと思いますし、あとは読書好きな方はもう、まさにですね、こういうまとまったお休みの時にたくさん読書をされたらいいのではないかと思います。長編の小説でありましたり、いろいろな研究でもよろしいかと思いますけれども、読書は本当に素晴らしい、時間がたくさんあるのでできるのではないかなと思いますね。あとはお手伝いでありましたり一緒に料理をしたりとかですね、あとご夫婦で家事、片付けをやったり、あと何か片付けだけではなくていろいろなことをやるつもりだなどということもお聞きをしております。まず本当にいろんなことができるのでありますけれども。

ただ本当に、これは例年と同じ状況ではないということをお常に考えていただいて、山形県、全国で新型コロナウイルスの感染を封じ込めてですね、拡大するのを封じ込めて、やはり終息に向かわせて、一緒にいきたいという思いでありますので、気を引き締めながらも県内でゆったりと有意義な時間を過ごしていただければというふうに思っております。

☆フリー質問

記者

YBCの奥山と申します。よろしく申し上げます。県境付近での検温についてお伺いしたいのですが、昨日、秋田県の佐竹知事が実際に実効性があるのかどうかというところで疑問を呈されました。その受止めというかですね、それをまずお聞かせください。

知事

受止めですか、はい。何かおっしゃったというようなことで今日の報道でちょっと知りましたけれども、今まで隣県とはですね、秋田県とは隣県として本当にお互いに協力し合えることは協力し、連携ということで協力し合ってきたと思っています。これからはそれは変わらないので、お願いできる場所はお願いしたりですね、されたりということにこれからはなっていくと思います。お互いにそういうことはこれからも続けながらも、お互

いの自分の所はですね、特にどうのこうのというようなことは私から今までも申し上げたことはないと思っておりますし、今回どういう意図でおっしゃったのかもわかりませんが、大変ご心配はありがたいのでありますけれども、やはり「できない」「できない」ということだけでは何もできないでしまうので、お互いにご自分の県民の命と安全を守るために何ができるかということで、必死になって全力で私は汗を流さなければいけないと思っておりますので、そういう思いでできるところをやっていきますので、ぜひご協力できるところはご協力をお願いしたいという、そういう思いであります。

記者

併せてちょっと質問をさせていただきたいのですが、先日の会見でも全台の、全ての車の検温とかはちょっと難しいというお話をされていましたが、そういった部分で実際に任意という形になるのかと思うのですが、その検温をした時に、実際37.5度以上の熱があったりした場合、それはもう県内に入らせないというのはそういったことも任意になるのか、そういった部分をちょっと詳しくというか具体的に教えていただけないでしょうか。

知事

詳しくというのはですね、やっぱり今内部で、あるいは関係機関と調整中というところがほとんどでありますので、具体的なことはまだ申し上げられないということでもあります。機材のことが報道されておりましたけれども、それぐらいでありましたらばですね、サーモグラフィというのが6台と、あと、体表面の温度感知器50台というような、そのぐらいまではちょっと導入予定というようなことは申し上げますけれども、あとのことについてはやはり次の会議のところで、そこまでとにかく調整をしながら、検討・調整をしますね、その次の会議で合意に達して皆さんにお知らせをするということになりますので、具体的なことはちょっと今の段階では申し上げられないということでもあります。

記者

ありがとうございます。

記者

時事通信の早田と申します。すいません、また（補足：山形県新型コロナ）総合戦略会議についてお聞きしたい部分があるのですが、昨日お伺いしたこととちょっとかぶって恐縮なのですが、いわゆるその、今は実効性が大事だということで、総合戦略会議をとりあえず押し進めることが大事だということで、オール山形にもしたいけど、そこの部分の兼ね合いが難しいという部分でお伺いはしていたところなのですが、その後というか、例えばほかの国会議員さんなんかにはちょっと参加を呼びかけているというのは。

知事

ほかの誰ですか。

記者

ほかの国会議員さんとかに、いろいろ力を合わせてほしいというふうに呼びかけているというふうには思うのですが、それはまた総合戦略会議とは別枠ということでしょうか。

知事

はい、別枠ですね。今回のはもう実効という感じの会議でありますので、県民の目の前です、ゴールデンウィーク、日々コロナ対策をやっているわけなのですけれども、特にゴールデンウィークがネックになるというような強い認識をやはり共有しておりますので、そのために何ができるかというようなことで、総合戦略会議は立ち上げて、どこまでできるかわかりませんが、最大限というか、あるいは抑止効果ということになるかもしれませんけれども、とにかくやれるだけのことをという思いでやるのが総合戦略会議です。

あと、オール山形でというのはですね、本当に平時は常にそういう意識でいろんなことをやっておりますし、ゴールデンウィーク以降、連休明け以降にそのオール山形というような大きな構えの会議を立ち上げて、もうすべての国会議員の先生方、そしてすべての市町村という、本当に経済界、各界、各層ということで、大きな構えの中で一体となって山形県のコロナを防止して、封じ込めて、そしてそのあと回復していくんだというそういうシナリオを作っていますね、みんなで協力し合って取り組んでいきたいと思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

山形新聞の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。昨日ですけれども、宮城県知事がですね、県独自の緊急事態宣言を出す可能性を示唆したという報道が一部ありました。仙台市と調整するというので、不要不急の外出の自粛要請であったりですね、店舗への休業要請というのが検討事項に入っているようですが、例えば隣県のこうした対応について、知事としてはどのように受け止めていらっしゃるかというのを教えてください。

知事

はい。隣県のお考えでやっておられることですので、我が県としてもそういうことは視野には入れているというか、今すぐ、現在ということではないのですけれども、やはりそれぞれの自治体でしっかり取り組むということでは、私はやっぱりそういう準備はしてお

くべきだと思っています。山形県もですね、やはりそういう準備といいますか、シミュレーションをしっかりとっておかなきゃいけないと思っております、我が県の場合は専門家、医療界のですね、専門家の方々の会議、専門家会議のご意見を踏まえながら、それがどのくらいの時期なのかというようなことをしっかりと見定めて、緊急事態宣言を出したいというふうに思っております。その際ですね、宮城県は仙台市ということでありまして、山形県の場合もですね、中核市ができておりますので、中核市であります山形市さんとも調整をしながらしっかりと方向性を探して取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

その、例えば具体的な時期については、今、県内で毎日のように感染確認が公表されているわけですが、そういった状況も踏まえての検討になるということではよろしいのでしょうか。

知事

もちろんです。現状、山形県の実情とですね、そして今後の見通し、そういったことも踏まえて専門家の皆さんのご意見も参考にさせていただきながら、緊急事態宣言というものを考えていきたいと思っています。

記者

具体的な内容というのは、知事の中では、今、頭の中ではどのような想定といいますか、ある限りでいいのですけれども、こういったものを想定されていらっしゃるのでしょうか。具体的な内容ですね。

知事

内容としては、やはり今以上にですね、皆さんにいろいろなお願いといいますか、要請をしたり、一丸となって、やはり、もうこれだけの事態になったので、一丸となって取り組んでいただきたいということを申し上げて、山形県民の命と生活を守らなきゃいけないわけですので、そのためのあらゆることをやっていきたいというふうに思っています。

もちろん、先行して実際に緊急事態宣言を出しておられるところがもうたくさんありますので、そういうところは参考にしたい、なおかつ山形県の実情も加味してやっていきたいと思っています。

記者

具体的な判断の目安というのは、例えば感染者が何名とかですね、範囲がどのようになった場合とかというのは、今のところありますか。

知事

専門家会議でそのところをお伺いして、それを参考に、それを踏まえての取組みにしたいと思っています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

NHKの後藤です。今の関係でですね、県内でも温泉街がかなり自粛ということも広がっている中で、改めて、飲食店も含めてなんですけども、休業補償といいますか、その辺について知事の考えをお聞かせください。

知事

休業補償。

記者

当然、企業としての活動を自粛していくわけですので、それぞれやっぱり経営的にも厳しい状況が生まれてくる中でですね、東京都なんかはその辺の何十万円という補償なんかのお話が出ていますけども、県内企業とか県内の飲食店については、知事としては国に対してですね、どういうふうにか、改めて要請というか、求めていきたいというふうにお考えでしょうか。

知事

はい。2月、3月から大変な状況だというふうに認識をしております。それで、これまでもですね、融資でありましたり、県独自の融資の緩和というようなことも行ってまいりました。

そして、政府としてもですね、様々なその対策を行うということで発表されていることがあるわけですね。例えば休業したところには雇用調整助成金というのがありますし、また、生活が大変になってしまった方々には30万円とかですね、あと、事業主には100万円とか200万円とかですね、そういったことも打ち出しておられますので、県としてはそれを本当に県民の皆さん、業界の皆さんにしっかりと周知をして、大いにというか、可能な限りそれを活用していただきたいというふうに思っています。

そしてさらに、これまではヒアリングもしてきましたり、連絡協議会ということで、経済界、各界、各層の実情もお伺いしてきました。その中でですね、家賃補助というようなことを政府、総合戦略会議でも国会議員もおられましたので、そういった要請もしておりますし、産業界から出てくるようないろんなその内容をですね、県として政府にしっかりと提案要請をしていきたいというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

朝日新聞三宅です。よろしくお願いいたします。第2回の戦略会議なのですがけれども、先日の加藤さん（補足：加藤鮎子衆議院議員）のお話などでもチラリと出ておりましたけれども、テレビなんかを使った、ITを使ってというようなことをおっしゃっていましたが、会議の形式であるとか日取りであるとか、それを公開でやるのかとか、そのあたりはどの程度固まっているのですか。

知事

はい。固まってというか、私どものスケジュール感として、できるだけ早くということではありますが、機材調達でありましたり、関係機関、外部の関係機関とのいろんな調整でありましたり、そういったことがありますので、それをしっかりと行いながら目処がついた時点でなるべく早くということですので、今週中ということを考えております。

記者

会議そのものは、先日のように我々に対して公開の形でやることになりますか。

知事

はい。たぶん公開ということになるかと思います。そして、お二人の国会議員の方はウェブ参加ということになるかと思います。

記者

わかりました。あと、県境でのさまざまな措置というのは、主に首都圏方面からいらっしゃる方を意識してのことかと思いますがけれども、先ほどちょっとお話に出た、秋田県との県境などでも何かやる予定なのでしょうか。

知事

はい、そこはですね、今ちょっとどの箇所かという、どこの道路でとかですね、まさにそこは検討中と聞いておりますので、ちょっとまだ秋田県境ということまでは、何ともお答えすることができません。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

河北新報の岩田です。先ほどの県境での検温についてなのですが、実施するとすると、先ほど秋田県知事にも何か協力できるところは今後協力をお願いしたいみたいなことをおっしゃっていたと思うのですが。

知事

秋田県知事がですか。

記者

吉村知事が。

知事

私ですね、はい。

記者

その県境で検温する場合に、隣県に何か協力を求める考えというのはあるのでしょうか。

知事

求めるということではなくてですね、お知らせ方々そのご理解をお願いしますということにはなるのかなと思っています。隣県のほうにまで出張ってやるというようなことではございませんで、山形県内でのことでありますので、ただ、「そういったことをする予定です」というようなことは、やはり事前にお知らせをするということになるのかなと思っています。ご理解をお願いしますということになると思います。

記者

あと、実施時期についてですけれども、2回目の開催時の、戦略会議開催時の段階で速やかに実施に移りたいということで、今週中に開催するということは、来週あたりから始めたいというようなお考えなのでしょうかね。

知事

ええ、まあ、その時にたぶん発表できるかと思っています。その日程も含めての発表になりますので、その第2回目の会議の時にお知らせできると思います。速やかにとしか今はちょっと申し上げられないですね。

記者

わかりました。あと、実効性のところで、県内の感染状況を見ますと、確かに県外から

来たご友人とかですね、ご家族から感染が、そこが経路だと推定されるような方々いらっしゃるんですけど、来県時点では、症状が無かったりとかですね、その後も無症状でかなり日数が経ってから発症したりとかということが見受けられると思うのですが、そうなる
と県境です、来た段階で検温ということの意味というか、どの程度効果があるのかと、
少し疑問があるのですが、そのあたりのご認識というのはいかがですか。

知事

そうですね、もちろん、たとえば陰性であっても後で陽性になったりということもある
ようですから、大変手強いウイルスだと思っています。正体がまだわからないとも聞いており
ます。ですが、検温して、朝検温してからお出かけになる、あるいは仕事に行くというこ
ともあるかと思えますけれども、そうでない方もあるかと思えます。そういう方に対しては、
たとえば検温してですね、37度5分以上ありますよ、というようなことで、今後と言いますか、
熱のある方に対しては、今こういう体調だというようなことの自覚になるかと思えます。

そして、4日以上熱が続いたら、こういうところにぜひ連絡をして検査をしたほうがいい
ですよ、というようなお知らせにもなると思えますし、やはりずっとその方がですね、感
染を拡大し続けるというようなことの防止にはなるかと思えます。

その場ですぐ入院してくださいというわけにはいかないわけでありましてけれども、その
記者さんの効果というのは何を効果とおっしゃっているのでしょうか。

記者

県境での検温時点で症状がないと。37度5分以上あればですね、自宅待機だとかホテルで
の療養要請をお願いしたりとかっていうことになるかと思うのですが、ない場合の実効
性というのはどういうふうに考えていらっしゃるのかと。

知事

そうですね、強制ということではできませんので、やはりビジネスでなくていらっしゃる
ような、そういう方の場合にはですね、熱がありますので、できればお帰りになってお休みされ
たほうがいいですよというようなことくらいは言えるかもしれないのですが、それも今内部で検
討中でどういうふうにするかということになるかと思えます。ただ、注意喚起はしっかりチラシ
も配りますので、そういった、そういったところに連絡をしてこれからどういうふうにするばい
いかというようなことをお知らせできるということにはなると思っています。その方に対してで
すね。あと、検温するということの効果と言った場合に、直接的な効果がどうなるのかとい
うことと、あと間接的な効果ということがあるかと思えますので、「山形県がそういうことをやるの
なら、もう当分行かないわ」という、そういう効果に繋がるかもしれませんし、やっぱり県外と
の往来控えようかなという抑止効果というものにも繋がるかもしれません。まずは、それが繋
がることを期待してやるわけでありましてけれども、いろんな効果があるかなと思っております。

記者

すると検温時に熱がないような、平熱の方に対しては。

知事

その方に対してもチラシはね。

記者

配るので、今後熱が出てきた時だとか、あとその他のこれから来ようとしている方への抑止になるのではないかということですかね。

知事

はい。そういうことにも繋がってほしいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の菊地と申します。続けてすいません。往来する車の中には、たとえばバスであつたり、それから業務用の車もあつて、時間と戦いながら行動しているいわゆるビジネスの業種もあると思いますが、そういったいろいろな事情に応じた対応という部分で言うところのようにお考えなのかという。

知事

わかりました。まずとにかく走っているのを止めるのができないということは、はっきり警察のほうからお聞きをしております。あと、止まったところでそういうことをできる限りさせていただくということになるかと思っておりますが、バスでありましたり、トラックでありましたり、いわゆる物流はですね、物流業界の方々は、もう検温もしているというようなことも聞いておりますので、やはりそういったところは除外ということになるかと思っております。具体的にどうするかというのは今ちょうど調整議論中でありまして、その中でそういったことが出るのかなと思っておりますが、私はそのようにも思っております。